

『父なる神の恵みを見る』 ヨハネの福音書14章7～11節 2017.4.9(聖日礼拝説教より)

『ことばは人となって、私たちの間に住まわれた…この方は恵みとまことに満ちておられた…いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。』 ヨハネの福音書 1:14、18

あなたは、日々聖書を通して御声を聴き、神様の御心を知り、その臨在と愛されている実感があるだろうか？神の愛の中にとどまるために、私たちに出来ること(①)と、神様がしてくださったこと(②)がある。

①神に問いかけ、答えをいただく…ペテロの問いに答えたイエス様は、「わたしの行く道は知っている(14:4)」と語る。それにトマスが問うた時、主は、「もしわたしを知っていたなら父なる神をも知り、すでに父を見た(14:7)」と語る。これにピリポが問う！「主よ。私たちに父を見せてください」！神は、私たちとの対話を通してより深い驚くべき奥義へと導かれる！

②人となられた神…「わたしと父とは一つ(10:30)」とは、ご自分が神であることの宣言！聖書の中で、イエス様が神として礼拝された場面は数多い(マタイ 2:11、14:33、17、28:9、ルカ 24:52、ヨハネ 9:38 等)。

◆主が神でなくてはならない最大の理由は、全人類の贖いのため！もしイエス様が神でなかったなら、その死は、全人類の罪の身代わりとしては不十分！『神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです(Ⅱコリント 5:21)』。罪なき完全な聖なる神が肉を身にまとい、身代りに十字架につかれたからこそ、全人類の罪と死の呪いからの救いとなった！

◆主が神でなくてはならない最大の目的は、神と人、人と人が愛においてひとつとなるため！主は、『こんなに長い間、一緒にいたのに、あなたはわたしを知らなかったのか(14:9)』と失望されたが、イエス様は、ご自分が父なる神といつもひとつに結ばれて、常に向き合っている姿に気づいて欲しかった！『聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです(17:11)』。地上にいるイエス様と、天におられる父なる神は『祈り』において「ひとつ」に結ばれていた！朝暗いうちから祈り、12弟子を選ぶときも徹夜で祈り、奇跡の時も、その都度祈っては力を得、ゲッセマネの園でも祈って父なる神様を仰ぎ、十字架も祈りをもって最期を迎えた。その目に見える恵み、ぬくもりを感じ、実感できる具体的な愛を受けた私たちは、互いに手をとって祈り合い、互いに赦し合ってひとつになり、互いに声かけあって絆を結び、「ひとつ」になることができる！

★そんな具体的な目に見える愛が、あなたの生活の中で見られるだろうか？